花の歳時記

花材料は日造協フラワーガイドシステム http://www.jalc.or.jp/ へ

プリムラ属　P.juliae hyb.(ジュリアン)

寒ボタン

花壇で面的に使われたムスカリ (岡山県チボリ公園)

【プリムラ属】

Primula L.

和名：別名	さくらそう属
英　　名	プリムローズ
科名　属名	サクラソウ科　プリムラ属
花　の　色	赤・白・桃・黄・紫・青
花の観賞時期	11～７月（種類によって異なる）
葉の鑑賞時期	11～７月
植付け期間	10月～4月
性　　状	草花
高さ（cm）	15～30
幅　（cm）	15～20
植付け範囲（cm）	約20×20
日照条件	日向～半日陰
土壌酸度	中性または微酸性
土　　質	砂土壌、壌土
耐　　性	高温多湿に弱い
用　　途	庭園・公園・鉢植え
流通形態	苗・成品
原　産　地	アジア・ヨーロッパ他
花　言　葉	気取らない愛（マラコイデス）幸福感（オブコニカ）可憐（ポリアンサ）

プリムラ属には５００種余りが知られていて、そのほとんどは中国西部からチベット、ヒマラヤ、ヨーロッパにまたがる北半球に分布しています。

日本ではサクラソウやクリンソウなど約２０種類が自生し、特にサクラソウは江戸時代にはすでに園芸草花として栽培が楽しまれていました。

"プリムラ"の属名は、ラテン語のprimus（＝最初の意）に由来します。実際には早春から夏にかけて種によってさまざまな時期に咲くものですが、中には雪が降るような季節に開花するものもあり、花の少ない早春を彩ります。

現在国内で流通しているプリムラ類は、そのほとんどが園芸種として改良を重ね、一部の種類は山草としても流通しており、このグループは原種そのものであることも珍しくありませんが、高温多湿を苦手とするため実用的ではない種類が多いのが残念です。

園芸種のプリムラ類には"ポリアンサ"、"ジュリアン"、"マラコイデス"、"オブコニカ"などがあり、開花期が長く、花色も豊富です。

"ポリアンサ"、"ジュリアン"は鉢物にも花壇材料にもよく利用されますが、原種同様高温、多湿は苦手なので春先から初夏までの花壇材料と言えます。"マラコイデス"も時々花壇に使われることがあり、原種グループの中でも日本産のクリンソウや雲南産のP.vialii、ヒマラヤ産のP.denticulataなどが公園などで植えられているのをごくまれに見かけます。

プリムラ類は本来は宿根草ですが、園芸種は一年草として扱われます。クリンソウのように適した場所に植えられたものは毎年よく咲きますから、日本に適した宿根プリムラの品種改良が待たれます。

（八ヶ岳ガーデン＆ナーセリー・岡野）

【寒ボタン】

Paeonia suffruticosa Andr.

和名：別名	寒牡丹：冬咲き牡丹、二十日草（ハツカグサ）、深見草（フカミグサ）、名取草（ナトリグサ、冬牡丹（フユボタン）
科名　属名	ボタン科ボタン属
花　の　色	赤・白・桃・黄・紫
花の観賞時期	12月～2月
葉の鑑賞時期	12月～9月
植付け期間	10月～11月
性　　状	落葉低木
高さ（cm）	30～100
幅　（cm）	50内外
植付け範囲（cm）	約80×80
日照条件	日向
土壌酸度	中性または微アルカリ性
土　　質	砂土壌、壌土
耐　　性	高温多湿に弱い
用　　途	庭園・公園樹。鉢植え
流通形態	苗木
原　産　地	中国北西部
花　言　葉	はじらい、富貴、壮麗

ボタンには5月頃に咲く普通の品種と、初夏・冬の二季咲き性の品種があります。寒ボタンと呼ばれるものは通常後者のタイプを指しますが、春咲き品種でも開花調節技術で冬に花の姿を愛でるものもあり、両者とも寒牡丹・冬牡丹の名前で各地の冬の名所を彩っています。二季咲き（寒咲き系）のものは普通の春ボタンより花が小さく樹勢も弱いため、確実に冬咲かせるには春咲く蕾を摘み取り、樹の頂点に着いた冬の蕾を充実させます。11月にはコモをかぶせて写真のように雪除けの冬囲いを行いますが、「百花の王」「花神」と呼ばれるその豪華絢爛な花が、冬景色の中で楚々とした趣を漂わせ、まさに寒牡丹という別種の縁起花として愛される理由は、この「菰被り」の演出に負うところが大きいようです。

美人を形容する「立てばシャクヤク、座ればボタン」という言葉のように、ボタン科の中でも木本性で分枝して横張りの樹形を示すものがボタン節、草本性のものはシャクヤク節と分けられています。現在ではその花を観賞することが目的で花色・花弁が多種多様な園芸品種が生産されていますが、原産地の中国では古来その根が沈痛・消炎の作用がある薬草として扱われ、属名のPaeonia（ペオニア）も「最初にこの植物を医薬に用いた医師Paeon（ペオーン）」の名前が由来だったとか。白楽天の長篇詩「牡丹の芳」に謳われているという「盛大な花見の宴を張ってその姿に酔いしれた」王侯貴族の姿とは裏腹に、当時庶民の暮らしの中では薬としての関わりが主だったのかも知れません。ともあれ、寒ボタンは厳寒期にも現代人の足を花園に向けさせる強い魅力を持った花といえます。

（１日比谷アメニス・橋本）

【ムスカリ】

Muscari armeniacum Leichtl.

和名：別名	グレープヒヤシンス、瑠璃（るり）ムスカリ
英　　名	Grape Hyacinth
科名　属名	ユリ科ムスカリ属
花　の　色	青紫・空色・白（黄・紫）
花の観賞時期	4月～5月
葉の鑑賞時期	10月～6月
植付け期間	10月～11月
性　　状	秋植え球根植物（夏季落葉）
高さ（cm）	10～20
幅　（cm）	5～7
植付け範囲（cm）	入替花壇で面的に花を見せる場合…5～10×5～10数年植えっぱなしの場合…15×15
日照条件	日向
土壌酸度	中性（酸性土を嫌う）
土　　質	砂土壌、壌土
耐　　性	耐寒性強い 湿潤気候地では5月の白絹病に注意
用　　途	花壇、鉢植え、水栽培、切り花
流通形態	球根、3球植えポット
原　産　地	地中海沿岸、欧州、西南アジア
花　言　葉	失望、失意

2月中旬頃から早々と花屋の店先で開花ポットが並び、モノトーンの風景の中でそのはっとするような濃青色に目を奪われる。私にとってムスカリは早春を印象づける球根植物です。園芸的には40もの種類があって実は色も形もさまざまですが、ここでは一番汎用的で丈夫なムスカリ・アルメニアカムを代表選手としてスナップ写真で取り上げました。

ムスカリの属名Muscariはギリシア語の「moschos」＝麝香（じゃこう）から来ており、花が良い香りを放つ、という意味だそうです。背丈が小さいので単発の地植えのときには気がつきませんでしたが、花に顔を近づけるとたしかにヒヤシンスのような強い香りがします。実際英名の通り、ヒヤシンスの近縁種。でも花は下向きの壺形のものが房状につくのが主流です。寒さに強く、植えっぱなしでも4～5年は毎年花をつける律義者。開花時期も花色も魅力的なので、パンジーと一緒にプランターに寄せ植えしたり、グラウンドカバーの縁に線上に配したり、芝生の飛び石の傍らからひょっこり顔を覗かせたりといった「少量で印象的」な使い方をプライベートスペースではよく見掛けます。

公共スペースでは逆に、散開林の下でスイセンやチューリップと一緒に面的に植え付けて色の迫力を楽しむのがセオリー（元祖はオランダのキューケンホフ公園？）だとか。冬場は葉が乱れ髪のように伸びて見苦しかったり、花の終わりが一斉にしかも急にやって来て花ガラ摘みと植え替えのタイミングを見計らうのが難しかったりと、花管理者泣かせの欠点もありますが、それも配植場所と観賞スケジュールを組む腕の見せ所と割り切って、早春の絵筆の恵みを存分に引き出して楽しんでみてください。

（１日比谷アメニス・橋本）